

町医者だより

平成20年05月号

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

OTC医薬品とは

最近テレビの風邪薬、胃腸薬、貼り薬のCMで「OTC医薬品です」と説明しているのにお気づき方も多いと思います。OTCはOver the Counterの頭文字です。オーバー・ザ・カウンター、直訳すると勘定台の上の方に置いてある店頭販売の薬です。薬局でレジの後ろの棚に胃薬や風邪薬の箱が並んでいる情景を思い浮かべてください。処方箋で調剤薬局からもらう医薬品と区別するための言葉で、海外もOTC医薬品という呼び名を使用しています。

小児用かぜ薬が問題視されています

医薬品医療機器総合機構が提供する「医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/>」というどなたでもアクセスできるサイトがあります。私も処方薬の添付文書を確認するときにしばしば使用するサイトですが、そのなかに「一般医薬品添付文書情報」という項目があります。そこで「かぜ薬」と検索すると何と600ものかぜ薬が市販されていることが分かります。これら全てが小児向けではありません。今回気がついたのですが小児用のかぜ薬は商品名こそ異なりますが、中身はどれも驚くほどに似通っています。多くは抗ヒスタミン剤とエフェドリンまたはコデインという咳どめと解熱剤としアセトアミノフェン(カロナールと言う名前で医師が処方しています)などが含まれています。昨年あたりから、米国ではこの小児用かぜ薬が問題視されている、との記事を度々見かけるようになりました。

OTC小児用かぜ薬は効かない!?

ニューイングランド医学雑誌の昨年12月6日号の記事に、驚くことが書いてありました。何と「OTC小児用かぜ薬の有効性が確認できない」とあるではありませんか。別の記事にも「偽薬との差が見られない」との記載があります。要するに「意味がない」というのです。

投与量の設定に問題が

効果が無いのは、投与量が少ない可能性があります。多くの小児への投与量は経験的に決められています。例えば、6-11歳では大人の半量、2-5歳は大人の4分の1の投与量といった投与方法です。OTC医薬品の抗ヒスタミン剤は6歳児投与量を、その他の成分は2歳児相当の投与量に設定しているようです(これらは米国の場合で、日本が同様か未確認)。それならば、多く投与すれば良いではないかと思われるかもしれませんがそれは危険です。過量投与がさまざまな副作用を引き起こし、死亡例も報告されています。米国では国に対して小児用OTC医薬品の有効性と安全性の検討を求める気運が高まっているようです。さて医療後進国日本はどのような対策を考えているのでしょうか。

おわりに

私も自分の子供にしたことがあります、「子供を静かにさせるために抗ヒスタミン剤含有かぜ薬を投与しないように」との警告文が米国の子供用かぜ薬には新たに付けられたそうです。